# 米沢と同志社大の深い関わりを紹介

## 校友会県支部講演会

同志社大（京都市）の校友会県支部（九里広志支部長）の講演会が7日、米沢市の九里学園高で開かれ、市立米沢図書館の青木昭博副館長が「米沢と同志社～『八重の桜』で分かった深い関係」と題し講演した＝写真。

NHKの大河ドラマ「八重の桜」の主人公・新島八重は、同志社大創設者の新島襄の妻。青木副館長は、ドラマ化を契機に判明した、襄、八重と米沢との関わりを示す新事実を、史料を元に紹介した。

戊辰（ぼしん）戦争後の1870（明治3）年に八重が米沢藩士・内藤新一郎を頼って米沢にいたことなどを説明。1882（明治15）年に夫婦で会津を訪ねた際には、襄が湯治のため白布温泉の旅館・東屋に滞在し、米沢藩士・甘粕三郎宅も訪ねたことなど、米沢との縁を示すエピソードを披露し、「新事実がもう少し早く発見されていれば、ドラマに大きな影響があったかもしれない」と述べた。

同大の西岡徹副学長も講演し約30人が聴講。引き続き県支部総会が開かれた。

（高野周平）

無断複製・転載を禁じます